

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年 2月13日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100674
法人名	医療法人 裕智会
事業所名	グループホーム アルプスの風 (3階・菜の花)
所在地	鹿児島県鹿児島市荒田1丁目11番1号 (電話) 099-296-8008
自己評価作成日	平成26年2月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成26年3月13日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・開設して3年が経過しようとしており、職員がパーソンセンタードケアの実践・本人主体のケアの実現に向け努力をしている。
- ・法人内研修は年8回程あり、研修で得た知識を更に深めて業務に生かすために、研修報告書も全員が提出し、その体制も定着してきている。管理者が認知症介護の指導者でもあり、院内研修では研修を担当することや、月に1度はグループホームの職員に向けた認知症の勉強会も実施している。そのほか、外部の研修にも積極的に参加する職員も増えてきている。
- ・法人の理事長(整形外科医)による週1度のリハビリ体操と音楽、また月に1度は音楽の専門家による『音を楽しむ会』、2ヶ月に1回はボランティアによる『歌の会』もあり、入居者の楽しみとなっている。
- ・医療連携体制による日常的な健康管理と、1階が認知症のサポート医でもある主治医の常勤するクリニックとなっており、状態の変化にすぐ対応することもできる。
- ・家族会や外出レクリエーション、入居者と共にする季節感のある壁絵や物作りなど、見当識や生活機能にも配慮している。
- ・地域の中学生の体験学習の受け入れや、保育園児が来訪して入居者との交流するなどの地域交流の機会がある。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念でも地域とのつながりを大切にするとあっており、目に入る所に理念を掲示。全員で共有してケアに生かしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや餅つきなど季節行事の参加を地域へも呼びかけ、共に行事に参加する事で交流を図っている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議の際、地域の方や御家族へ参加を呼びかけて認知症についての理解や支援について等意見交換している。学生の職場体験の受け入れも行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議(2ヶ月1回)を開催し、グループホームでの入居者の生活状況を報告して課題や改善点などを意見交換している。会議録を残し、職員間で共有してケアに生かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営にあたり、不明な点や相談事があった時は状況に応じて市の担当者へ随時間い合わせ、助言や協力をもたらしている。今後も継続して市の担当者との連携を図り、サービスの向上に努めていきたい。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員参加にて身体拘束廃止についての研修を実施。研修を通し、身体拘束廃止についての理解を深め、今後も身体拘束廃止に努める。現在まで身体拘束の事例はない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止についての研修と共に、高齢者虐待防止についての研修も実施。職員全員参加するようにしている。今後も虐待が見逃されないような環境を作り、虐待防止に努める。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護や成年後見制度についての研修を受けており、今後も状況に応じて関係機関との連携を図りながら、権利擁護の理解を深め、実践・活用していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約締結時には、契約書の読み合わせを行い、入居者及び家族が疑問点など随時質問できるようにしている。今後解約や改正などが必要になった際は、その都度十分に説明を行い、理解してもらえようように勤めていく。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>フロア入り口にご意見箱を設置している。家族会では、御家族のみで意見交換できる時間を設け、後でその意見を家族会会長より管理者へ報告してもらい、事業所の運営に反映している。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員カンファレンスを月1回実施し、意見が出せる機会を設けている。運営・業務の内容や方法も職員間の協議を重要視し、反映、共有できるようにしている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>働く環境・条件を整えるため、目標管理面接や、人事考課表を活用し、客観的な指標の基、適切な評価ができるように努力している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修の機会を増やし、外部研修にも参加しているが、今後更に本人自らの外部研修受講意欲に繋がるように努力していきたい。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修における同業者との交流の機会や、同業者の実習受け入れによる交流の機会がある。交流で得た知識を今後ともサービスの質の向上に活かし、更なる向上を図れるよう努力をする。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族との事前面接で得た情報を基に、本人の不安や不満などを聞くようにしている。サービス開始時にはその人の「思い」を反映した暫定ケアプランを基に更に詳しくアセスメントを行うよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面接を行ない、困りごと、不安・問題などを聞く機会を設けている。これまでの介護に対するねぎらいと、要望の理解、介護負担の軽減に向けた話などで関係をつくれるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの導入時に優先順位を考えている。何をどうしたら本人・家族の現状をよりよくできるのかを考え、早期に入居者の安心や安定となるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援：「自分でできることはする。」という意識となるように働きかけている。アセスメントを十分に行い「できること」を把握して、共同生活者としての良い関係を構築し、自立に繋げる必要がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に、家族とスタッフは入居者を挟んだケアチームであると話している。面会に関しては喜んで足を運べるような環境を作る努力も必要である。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や面会の自由を確保しており、職員も付き添うなど、これまでの生活が保てるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやティータイム等において、共に楽しめる環境を整え関係を作っている。入居者同士がお互いに助けあえる様子もあり、今後もこの関係が継続できるように支援していく。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当法人内のサービス利用継続の人に対して、その後の様子を聞いたり家族の要望があれば、必要な事を支援するなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ふとした言葉や表情・心身の状態から、思いや希望を受け止めるようにしている。定期的にモニタリングを行う事で、思いを反映した支援ができたか確認している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や、ご家族、ケアマネからの情報収集により、職員が一人ひとりの生活背景や、状況を理解できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務に入る前に、経過記録や生活日誌を必ず読み、一人ひとりの情報収集を行なっている。まず現状の把握ができないと良い支援はできないと考えている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が実施したモニタリングを参考に、計画作成担当者が総合的な視点でアセスメントを行い、介護計画を作成している。実施の前に本人や家族とのカンファレンスで協議を重ね、介護計画に反映している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録にはフォーカスチャータリング様式を採用している。実施した支援、本人の思いや状況は、フォーカスの文面からだけでも収集でき、必要な情報の共有・把握も含め、支援や介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の思いや状況の変化を把握して支援を行なっている。多面的な視点を持ち発想を広げる事で、入居者の思いに少しでも近づけ、その人本位の支援に繋がっていくと考えて努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや校区の中学校の「職場体験」、保育園児との交流、入居者の安全で豊かな地域生活に向け可能な地域資源の活用をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一階に主治医（認知症サポート医）のいるクリニックがあり、定期的に受診をしている。日中、夜間の状態の変化にも対応ができる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>管理者(看護:法人と兼務)とクリニックの看護師による医療連携体制があり、毎週1回の健康チェックや、日常的に看護を受けられる体制がある。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時にはサマリーを作成し、情報提供を行う。家族や病院関係者と連絡を取ったり、見舞いに行ったりして状態の確認をしている。退院後のケアを職員で話し合い、早期回復に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や看取り介護に対する指針を作成して入居時に説明・同意・契約を行なっている。また、定期的にカンファレンスを行い、ケアの方向性について説明をしている。看取りの必要がある時には再度協議をする体制をとっている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員全員が救急救命の院内研修や応急処置・緊急時の対応を学んでいる。緊急時のマニュアルもあり、研修を通して知識を身に付け、実践に繋がられるように努力している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>想定外の自体にも対応できるよう年2回の避難訓練を計画・実施している。消防署立会いのもとで、災害時の適切な知識や避難方法の指導を受けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者と接する際は相手の尊厳や誇りを大切にしている。各入居者に配慮した声掛けを実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から生活の中で入居者とのコミュニケーションを大切にしている。各入居者の希望を確認し自己決定ができるようにと支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者の趣向や希望が活かされる生活という視点を大切に、その時その時の意向の把握に努め、それぞれが生活の中心的存在であるようにと支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入居者の希望を大切にしながら着たい洋服を職員と共に選び考えている。毎朝や入浴時の整髪などで身だしなみを整え本人らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と共に献立を考えたり、時には調理の時から安全に配慮しながら手伝ってもらったりしている。各人の力を活かし台拭きやお盆拭き、後片付けなど家事が出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者に適した食事量や食事形態にしている。栄養バランスや好き嫌いにも配慮し、十分な水分が確保できるよう支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内を清潔にする重要性を十分に理解し、清潔保持と感染症予防の為にそれぞれの入居者に合った必要な支援を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄支援は羞恥心や自尊心を大切にしながら行うように心掛けている。排泄の自立は認知症進行と深い関係性があると考え、可能な限りトイレでの排泄ができ、尊厳保持にも繋がることを心掛けている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が心身に及ぼす影響を考え各入居者の排便のチェックや聞き取りを行い必要な支援を行っている。飲食物の工夫や運動などを個々に合わせた支援に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	各入居者の意向や心身の状況などを考慮し、週3回の入浴を実施している。状況や必要に応じた入浴支援も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者が快適な睡眠を取れるよう室内環境などを整えている。生活習慣や状況を考慮し休息したり夜間の声掛けなどにより利用者の不安を取り除くよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬に対して、薬剤師による副作用・用法・容量などの薬剤管理指導や、症状の変化による主治医の指導を受けて服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者に合わせた自立支援を実施している。それぞれが充実して過ごせるよう日常生活における役割のほか、レクリエーション活動・散歩などの気分転換の支援も実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常生活の中に散歩やドライブや買い物など外出の機会を設けている。定期的に花見や外食・敬老会など外出レクリエーションを実施。また家族と共に外出されることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者がお金を所持することで生活の安心となる事を理解している。預かった小口現金は利用者の希望するものを職員と共に買いにいけるような支援もしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>交信の自由は基本的なことと捉えて重視している。電話をしたいという時には、家族の状況にも配慮しながら支援を行なっている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロアに飾られている絵や置物は、その時々季節を感じられるようにと職員と入居者が共同制作したものである。入居者が力を発揮できる環境（家具やしつらえ）で自立支援ができるようにと考えている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>レクリエーションを活かしそれぞれの入居者が交流を図れるよう取り組んでいる。またそれぞれの心身の状態にも配慮し、ひとりでの自由な時間を楽しめるような支援もしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族には本人が安心して過ごせるよう使い慣れた家具や持ち物を持参してもらうようお伝えしている。清潔に過ごせるように、毎朝の清掃や、週1回の寝具交換も行なっている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり。</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>現在入居者は環境にも慣れ、戸惑いを見せる事はなくなっている。今後ともそれぞれの個人にあわせた安心・安全な生活が出来るように工夫をしている。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない